

2023年度賛助会へのご賛同、ありがとうございました。

松浦和美様、池尻幸司様、斉藤忠子様、泉川妙子様、田中亜紀様、天野勲様、赤崎すみ子様、前田善晴様、眞鍋幸子様、浜崎均様、丸尾幸雄様、溝口三千子様、川上康夫様(順不同)

クラブハウス

精神保健福祉士 塩田文音

2024年1月に約6年ぶりとなるクラブハウスが行われ、総勢9名の参加となりました！久しぶりのクラブハウスということで、実行委員だけでなく参加を検討している方を含めて年間の計画を立てました。お花見やBBQなどワクワクするような提案が次から次へと挙がっていくなか、クラブハウスへ初めて参加する人もいるだろうということで、1月は親睦を深めるためにも新年会(鍋パーティー)をすることにしました。今回は感染対策のためbuffスタイルでの鍋パーティーとなりましたが、2024年の目標を一人ひとり発表しながら楽しく過ごしていたらあっという間に鍋が空っぽに！ウーのうどんとラーメンで最後まで美味しくいただきました。その後はお菓子をつまみながらテーブルゲームをしたり、作業をしたりとそれぞれの時間を過ごしました。今回のクラブハウスを終えて、次回はクラブハウスの目的などを改めて確認できる企画をしようと思いがてました。今後も引き続きクラブハウスの活動を続けていけたらと思います。

キムチ鍋 & 寄せ鍋



フェイスブックはこちら



バザー出店時や当事者研究、インプロなど、活動報告はフェイスブックにて行っています。半年に一度のLIFEではたんぼほのエネルギーが足りない！というあなたにぜひ。

LIFE を読んでいただいた皆様は今年の目標を決めていますか？私はクラブハウスで目標を語り合った日から、しばらく考えています。一年間前向きに取り組める目標は何か、熟考しています。ちなみに今年は美容部門・対人部門・チャレンジ部門、あと宣言したのでクラブハウス部門の目標(連絡調整を頑張る)を掲げる予定です。何年も前、メンバーさんから「目標を立てるのが好きなんです」と声をかけられたことを思い出します。本当にその通りで、あの頃より年々目標の部門数が増えている状況です。(HY)

LIFE

第74号 2024年2月1日発行

特定非営利活動法人SAJA (サヤ)
就労継続支援B型事業所 たんぼほ
〒763-0066 丸亀市天満町1-2-31
TEL: 0877-22-2840
HP tanpopo-saja.com

先達に学ぶ

理事長 村井 藍子

日頃は当就労継続支援B型事業所たんぼほの諸活動に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「たんぼほ」は1990年丸亀市内において小規模作業所として、家族、当事者、行政関係者、精神保健福祉士の協働で立ち上がりました。当初作業所は法定外施設であり関係者の善意で設立運営されました。その後、社会福祉法人認可要件が緩和されたので法人化運動をおこないました。理念を大切にしつつ普遍的にこの活動を続けられるよう、様々な方々のご協力や寄付により長い時をかけ法人申請が可能となりました。しかしその年、障害者自立支援法(現、総合支援法)が施行されたことを契機に、NPO法人を取得し地域活動支援センターⅢ型として出発しました。その後も様々なことがありましたが、現在は就労継続支援B型事業所で活動をおこなっています。

理念は、『働く場を提供することにより、利用者個々の社会参加を促し、安定した地域生活が維持できるように支援する。また、地域住民の方々との繋がりを重視し、地域社会に貢献するとともに、差別や偏見の是正を目指す。』スローガンは「誰もが主役の地域社会を目指して」です。この理念を念頭におきつつ活動を続けています。

現在の社会の状況から、今ある当たり前のことが本当は当たり前ではないということに気がかされます。また以前からも「私たちの当たり前」が当たり前でない目の前の現実があります。理念を大切にしながら、この活動を継続していくために、事業の形態を変更しながら今日を迎えました。

昨年末の久しぶりの見学研修では、それぞれの事業所の活動や歴史は違っても、自分たちの原点や大切にしてきたことを改めて確認することの大切さを学びました。現在の法制度では難しくなっていますが、先達に学び当初の想いや活動の起こりを忘れずに自らを顧みて、これからも様々なことに挑戦していきたいと考えています。今後とも変わらぬ皆々様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

バザー出店 理事長 村井藍子



今年度の9月～11月にかけてコロナ感染症が5類に移行したこともあり各種バザーを再開しました。様々な団体からお声掛けいただき有難い限りです。コロナ以前に出店していたものや新しくお声掛けいただいたバザーにも出店しています。文化交流祭、まるっとえにし市、ふれあい祭り、人権フェスタ、人権関係の文化祭等です。現在は主に地元のバザーに出店し住民の方々との交流を大切にしています。販売しているものは手作りクッキー、駄菓子詰め合わせ、手作り雑貨等ですが、商品を通してクッキー作り等の話をしたり、私達の活動を対面で話をして、より知ってもらえる機会となっています。

「疾患」と「病」の違いを考える

副理事長 西谷清美

疾患というと、内科疾患とか精神疾患等が思い起こされます。内科であれば高血圧症や高脂血症、精神科であれば統合失調症がすぐに思い浮かびます。疾患は英語だと「disease」となり、一方、病は英語にすると「illness」と訳され、疾患とは区別されています。ただ、日本では一般的に両方とも「病氣」と訳されているのですが、先述したように医学的にはそれぞれ異なる状態を指しています。

「disease」は、医学的に身体の異常が確認されている状態に使用され、「illness」は主観的にその人が苦痛を感じている場合に使用されます。したがって、何らかの「disease」(疾患)があっても、「illness」(病)がない、つまり苦痛を感じない場合もあるということです。

ここでは、「illness」(病)を取り上げます。病の問題とは、医学的評価や診断そのものとは異なり、症状や能力の低下、そしてそれらが社会とのやりとりの中で作り出す根本的な困難のことです。それはそのまま病む人にとっては、生きづらさや苦痛として認識されます。一方、疾患は治療者が病を障害の理論に特有の表現で作り出す際に生み出されるものであり、治療者は治療行為に特有の理論的レンズを通して疾患を認識します。つまり、疾患は治療者の視点から見た問題なのです。

ところで、社会福祉分野の支援者やソーシャルワーカーは、「疾患」と「病」のどちらに重心を置いて「その人」にかかわるべきか、その意味を理解するべきか、ということについて検討しないわけにはいきません。何故なら、病の意味を理解することは、多くの場合、病の「その人」と病の人の家族(親族)、友人、支援者(関係者)等との人間関係の中で行なわれるからです。そして、病の人から伝達される病の意味は多義的であることが多く、時に症状が増幅したり減衰したり、能力低下が際立ったり目立たなくなったりすることもあり、さらに治療が妨げられたり促進されたりすることさえあります。不確実ですが、このことは病む人とかかわる家族や友人、支援者の多くが経験するところでもあります。

繰り返しますが、疾病は医学生物学的レベルで評価され取り扱われます。そこには治療という一定の法則にしがたってその意味が理解され認識されます。病はどうでしょうか。そのことに耳を傾ける人との人間関係や経験、感情等によってその意味は大きく異なることとなります。病による苦悩や苦痛、生きづらさに対する意識や態度、自らの現状に関する認識の持ち方は、病を語る「その人」によって区々です。同じ疾患であっても語られる「病」は異なるのです。そうすると、病はその人の生き立ちや育ち、人との交わり、環境や社会的立場等と無関係ではなく、むしろその人が置かれている状況が作り出すものではないかとさえ思えてきます。

いずれにしても、病に耳を傾けることはその人への共感につながり、その人が抱え感じる生きづらさへの理解に近づくことができます。社会福祉分野の支援者には、人が病むことの意味を社会的な観点から一考してみることをお勧めします。

WEL-FES in SGU 2023

精神保健福祉士 山崎春菜



昨年11月25日(土)、四国学院大学にてWEL-FES in SGU 2023～明日のFUKUSHIを考える～の中の、社会福祉と演劇ワークショップ～「インプロ(即興演劇)」で遊んでみよう～にメンバー4名・OB1名・スタッフ2名が出席しました。緊張している様子も少しありましたがインプロが始まればいつもどおり、賑やかに和やかに場を回していました。初対面の方やインプロ初参加の方方も交えながら、また、小学生のお子さんからマダム世代まで、世代を超えた笑いの絶えない会場となりました。

その後、希望者と共に福祉座談会『明日の福祉を考える』を聴きました。実際に福祉の現場で働いている方々の声や学生に対するアドバイス等を聴くことができました。私自身としては学生の間、福祉を学んできた大学に、また帰って学ぶことができるなんて縁や環境に恵まれていると思い、とても良い刺激となりました。(写真は四国学院大学HPより抜粋)

施設外研修 in 徳島

主任 小西靖代

昨年12月1日(金)徳島県の「NPO 法人太陽と緑の会」と「社会福祉法人街の中の喫茶店あつぷる sweets 工房」にメンバー、スタッフ、四国学院大学生、合わせて25名でお邪魔しました。コロナで外出が難しい状況が続いていたため、4年ぶりの県外研修です。最初に「NPO 法人太陽と緑の会」にお邪魔しました。地域活動支援センターとして、リサイクルショップを運営されています。代表の杉浦氏より事業所の説明を受けて、地域の方との繋がりを大切に、表に見えるリサイクルショップだけでなく、太陽光発電を使用したり、雨水を濾過し、自分たちが必要な資源を自分たちで作るというポリシーで事業所運営をしているとのことでした。SDGSが言われている今より遥か昔から環境保全、資源活用への取り組みをされていたそうです。見学でも地域の方が途切れることなく来られていました。

次に、「あつぷる sweets 工房」にお邪魔しました。たんぼぼと同じ、B型事業所として、カフェと sweets の販売をされています。カフェでは毎日約100食のお弁当の販売とランチ営業をされています。食事と、美味しいスイーツをいただきながら、メンバーさんの体験談や管理者の山下氏より説明を受けました。徳島市の商店街から移転して4年が経ち、今ではお屋敷になるとテイクアウトのお弁当や、ランチのお客さんで賑わって毎日忙しくしているそうです。メンバーは、朝6時過ぎから来て、それぞれの役割をこなしているそうです。それぞれの事業所で、たんぼぼのメンバーも質問したり、交流を楽しんでいました。日帰り研修で、時間も限られていたため、騒がしくしましたが暖かく迎え入れてくれた2つの事業所に感謝するばかりです。私たちもたくさん刺激があり実のある研修でした。今後も施設外研修での学びを活かした活動をしていきたいと思っています。

当事者研究ミーティング

副理事長 西谷清美



11月12日(土)の当事者研究ミーティングは、メンバー4名、スタッフ2名、私を含めて総勢7名で実施しました。まずは、お互いの元気を確認し合い、そして「弱さの情報公開」の結果、苦勞ネーム「爆発 Chan」を研究することになりました。爆発 Chan の壮絶な日々は、罵声、暴言、傍若無人な態度の応酬と、それに続く後悔と自己嫌悪の旅。それに対して「ああでもない」「こうでもない」と周囲から飛び出すアイデアと共感の言葉の数々。…という具合に、爆発 Chan の正体を見極めるべく、研究に取り組みました。

12月10日(土)の当事者研究ミーティングは、メンバー5名、スタッフ2名、私を含めて総勢8名で実施しました。この日は弱さの情報公開の段階から「なんだかんだ」と対話の応酬で始まり、苦勞ネーム「すみこまちゃん」を巡って、意見と体験談と新たな理論の発出。困ったり、その場をやり過ごすために使用する「すみません」という言葉は、挨拶から謝罪まで使える便利さゆえに、自分の気持ちを誤魔化してしまうという危うさを伴う、ということで、次第に愛おしくなってくる「すみこまちゃん」の研究は、単に言葉の問題を越えて私たちの生き方の問題へと深化していきました。

